

夜間中学が併設される

大分県立爽風館高校を訪問

大分県立爽風館高校は、通信制の碩信高校、定時制の大分中央高校、別府鶴見丘高校定時制を発展的に統合し、独立単位制高校として2010年春に大分市上野丘に開校しました。

9月8日(月)、県民クラブで学校を訪問し、校長先生をはじめ職員の方々にお話をお聞きしました。

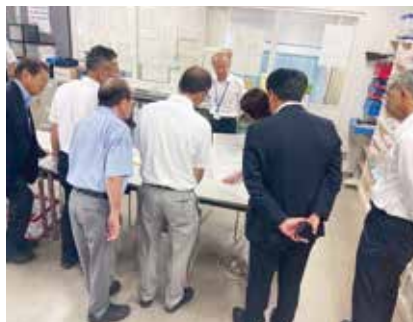


爽風館高校には定時制(生徒数438名)と通信制(生徒数1,214名)が設置されています。

定時制と言うと、苦学生が働きながら夜に学んでいる姿をイメージする方も多いと思いますが、現在は様々な状況の子が朝のⅠ部、昼のⅡ部、夜のⅢ部で自分の生活スタイルに合った時間で学んでいるとのことでした。もちろんバイト等をしながら学んでいる生徒もいます。

驚いたのは、通信制の生徒が1,000名を超えていること。石井校長先生のお話によると、全国でも通信制高校に通う生徒が増えているそうです。後で調べてみると、全国統計では9.1%が通信制高校の生徒で、全日制高校の生徒数が減少している中、通信制高校の生徒数は増加し続けていることがわかりました。ちなみに、茨城県では34%の生徒が通信制高校で学んでいる(2024年度統計より)とのことでした。

通信制高校の生徒数が増加している理由として、一番に上げられるのは不登校生徒の増加でしょうが、学習ニーズの多様化や時間の自由度などもあるようです。



「本校定時制・通信制のシステムや校風が、全日制高校になじまない多くの生徒を救っていると考えています。」と校長先生は言われてい

ました。

夜間中学が来春「大分県立学びヶ丘中学」として爽風館高校内に併設されることに関しては、どのように施設を使うかなどの協議が両校及び県教委とで続いているそうです。

原田たかし活動報告



猛暑日が続いた今夏...

地球温暖化防止は緊急の課題です

今年の夏も、本当に厳しい暑さが続きました。9月になってもその暑さは衰えず、ちゃんと秋が来るのだろうか不安になります。

このように猛暑日が続く夏はいつ頃からでしょうか?調べてみると、猛暑日には明確な規定がされており、気象庁では最高気温が35℃以上になれば「猛暑日」、30℃以上35℃未満であれば「真夏日」というそうです。

しかしながら、この「猛暑日」という言葉は2007年まで気象庁が用いる予報用語には存在していなかったとのこと。それが2007年の予報用語改正により、「猛暑日」と「熱中症」が新たに追加されたそうです。



この夏、原田たかし事務所の前にヒマワリと朝顔の鉢を置いていたのですが、1日に1度の水やりでは不足、2度、3度と水やりをしなくてはなりませんでした。

しかも、水やりのために水道の蛇口をひねると、しばらくの間、熱湯が出ていました。来年、ヒマワリと朝顔は底面給水の鉢に植えようと考えています。

地球温暖化が進むと、気温と海水温の上昇、海面水位の上昇、異常気象の増加、生態系の崩壊、食料や水資源の不足、健康リスクの増大、移住を余儀なくされる人々の増加など、地球規模で重大な影響が現れます。

年に数回、仲間とともに県内各所で「ストップ!地球温暖化」パネルスタンディング行動を行っています。地球温暖化防止は、世界的な取り組みが必要だと考えています。

2025年9月16日撮影

